

令和元年度 東京情報大学総合情報研究所プロジェクト研究
研究実績報告書

1. 研究課題名

地域在住者の生活・健康の実態と健康支援に関する研究

2. 研究組織

区分	氏名	所属・職名
研究代表者	豊増 佳子	看護学部 看護学科・講師
研究分担者	川口 孝泰	看護学部 看護学科・教授
	吉岡 洋治	看護学部 看護学科・教授
	葛西 好美	看護学部 看護学科・准教授
	大石 朋子	看護学部 看護学科・講師
	伊藤 嘉章	看護学部 看護学科・助教

3. 連携先団体等

団体名	連携部署
千葉市 A 区役所	地域振興課地域づくり支援室
千葉市地域包括支援センター	

4. 研究期間

2017 年度～2020 年度（3 年計画の 3 年目）

5. 研究の目的

本年度の目的は、地域在住者の生活・健康の実態に対する健康支援方法に関する 3 年間の調査研究を踏襲することである。連携先へ結果の報告や提案を行い、相互連携の充実・強化を図り、最終的に、この研究プロセスにおいて地域連携を図ることによる地域貢献を目指す。地域における健康支援に関する研究としてさらに進化させ、地域における生活・健康支援と地域連携の在り方について情報の観点から探究する。

6. 研究報告

初年度（2017）においては、研究目的と実現可能性を探究しながら研究実施計画を再構築して、「地域在住者の生活・健康の実態と地域包括支援センターの健康支援ニーズ」をインタビューテーマとして調査した。

2 年度（2018）においては、初年度に行った地域包括ケアセンターへのインタビュー調査から、地域在住者の生活・健康の実態と地域包括支援センターにおける健康支援ニーズ、

地域の生活・健康の実態とそれらへの支援活動をまとめた。近年、調査地域内においては、地域包括ケアセンターの増数に伴い、管轄地区の分割化・縮小化からサービス体制の充足、そして、住民の生活・健康に関わる様々な課題を解決するための包括的支援事業について様々な工夫がなされて活動されていた。しかし、各地域ともに急激な高齢化率の上昇による地域住民の生活・健康支援ニーズは更に増加し多様化・複雑化していること、また、地域における生活・健康支援のサービス活動の存在そのものについて、住民に更なる理解や活用を推進するための情報伝達手段や専門職間の連携手段のニーズ等についても語られていた。この調査結果を学会発表し、地域における健康支援活動をサポート、主に、多様化・複雑化している活動を整理しサポートする方法について、情報の観点からニーズや課題に関する調査を更に深め、活動支援方法やツール等のデザインについて検討した。

3 年度（2019）においては、健康支援ニーズの調査結果を地域に報告して還元することを目的とした。その方法として、まず、先の調査対象者を含む地域ケア会議の参加者に結果報告を行い、その報告結果に対する意見の集約や課題の優先順位に関する追跡調査を、グループインタビューおよび調査票により行った。その結果、初年度の調査結果に対して、「概ね賛同する」から「大いに賛同する」という回答を得た。調査票の自由記載欄では、「課題の整理ができた、情報集約の必要性を再認識した、見守り活動に注力する必要性の再認識、問題・課題意識の共有や連携の必要性、災害時の情報技術の活用への期待」という記述を得た。

地域在住者の生活・健康の実態に対する健康支援方法に関する 3 年間の研究プロセスにおいて、地域連携を図ることによって地域貢献や相互連携の充実・強化を図ることができたと考察する。今後も地域における健康支援に関する研究としてさらに進化させ、地域における生活・健康支援と地域連携の在り方について情報の観点からの探究を継続する。

7. 成果の公表

3 年間の成果

1. 豊増佳子・葛西好美・吉岡洋治・川口孝泰, 地域包括支援センターにおける情報通信技術活用に向けたニーズ調査、第 22 回日本遠隔医療学会学術大会発表[口演]、2018 年 11 月 9 日（福岡）
2. 豊増佳子・葛西好美・吉岡洋治・川口 孝泰, 地域包括支援センターにおける情報通信技術活用に向けたニーズ調査、日本遠隔医療学会雑誌、14(2), 159–162, 2018.
3. 葛西好美・豊増佳子・大石朋子・吉岡洋治・川口孝泰, 地域包括支援センターにおける住民の健康ニーズの把握と情報共有について、日本看護研究学会第 45 回学術集会[示説]、2019 年 8 月 21 日（大阪）

8. 総評

連携先公共団体等からの総評は受けていないが、地域ケア会議における本研究対象者からは、おおむね賛同のご意見を受けた。